

令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	大和町立落合小学校	主な取組教科	算数科	
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 —算数科における振り返りと学び合いを通して—		研究年次	3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
教科書やノート、掲示物等で既習事項や関連する内容を確認させる。	声掛けをしなくても児童が自ら教科書やノートを振り返るようになった。	意識調査において「既習事項を使って問題を解いている」と回答した児童の割合は100%だった。
振り返りの視点（「わかき」）を与え、振り返りを行わせる。	何を学んだのかを書かせることで、児童の学習改善や教員の授業改善につながった。	意識調査において、「振り返りをしたときに学習が分かった」と回答した児童が18%増加した。
数学的活動を工夫し、自分の考えを言葉や図、式で表す場や時間を十分に確保する。	自分と他の児童の考えを比較し、自分の考えを深めることができるようになってきた。	意識調査において「自分の考えを説明したときに学習が分かった」と回答した児童が15%増加した。
児童の発言に対して問い返しをしたり、誤答を活用したりするなど働き掛けを工夫する。	発言に対して問い返すことで、児童の思考を揺さぶり、さらに深く考えさせることができた。	町標準学力調査における「数学的な考え方」の正答率が3つの学年で標準スコアを上回った。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
振り返りを行う時間の確保が課題となることが多い。	児童の解決意識を高める導入をコンパクトに行う、自力解決よりも集団解決（学び合い）に時間を割くなど、展開の工夫が必要となる。
自分の考えを自信をもって伝えることに対して、苦手意識をもっている児童が学年が上がるにつれ増加傾向にある。	算数用語を用いての発表や話形など、説明の仕方の例を示すような手立てを工夫し、学び合うために必要な基礎・基本を更に定着させていく。